

# 医療施設におけるフィールドデータ収集の準備についての学習会

慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科

看護学専修 母子看護学分野 修士課程 2 年

中北 充子

nakaki77@sfc.keio.ac.jp

## 1. はじめに

近年、エビデンスに基づいた医療ということがいわれて久しいが、看護においてもエビデンスに基づいたケアが求められるようになってきた。エビデンスを得るため、様々な測定器具を用いて生体反応を科学的にとらえようとするような研究も増えてきている。臨床の場において患者に対して行う研究は、安全・安楽でなければならず、また簡便に測定でき、なおかつ信頼性のあるデータを得なければならない。医療施設での研究を行う際には、十分な倫理的配慮や方法や手順の十分な検討が必要であることから、データ収集をするにあたり、事前に医療施設に勤務する助産師・看護師や大学の教員からアドバイスや情報を得たいと考えた。さらに研究協力のネットワークを作ることにより今後の研究につなげていくことが必要であると考え勉強会を実施した。

本報告書では、2008 年 6 月 10 日および 6 月 28 日に実施した「医療施設におけるデータ収集の準備についての学習会」の内容とその成果を報告する。

## 2. 目的

医療施設におけるデータ収集前の測定器具（モニター心拍計と唾液アミラーゼ測定器）の使用法と使用する際の留意点についての勉強会を実施する。

医療現場でのデータ収集について可能性の検討やアドバイスを得るための座談会を開催し、研究協力のネットワークを作る。

## 3 勉強会の開催報告

### 3.1. 勉強会の概要

#### (1) 第 1 回勉強会

日時：2008.6.10 13:00~17:00

場所：e-ケアスタジオ

講師：日本赤十字九州国際看護大学 佐藤珠美教授

参加者：計 5 名

内容：

健康成人女性を対象に本研究と同様の介入による予備実験を 4 名に対し、図 1 に示すような測定器具を装着し、背部のマッサージ前後のデータを収集した。その結果から研究方法・手順などについてアドバイスを得、マッサージの環境・測定器具の装着、効果の評価方法等についての検討をおこなった。

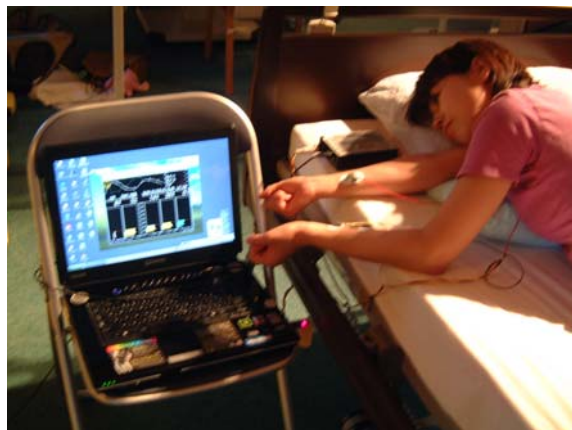


図 1 予備実験

#### (2) 第 2 回勉強会

日時：2008.6.28 10:30~12:30

場所：横浜市教育会館 第 2 研修室

講師：助産師 森能紀美代氏、助産師 菱沼久子氏、助産師 中嶋志帆氏、助産師 小島治子氏、助産師 郡司麻希子氏

参加者：計 9 名

内容：

#### 1) 母性看護・助産学の研究について

慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科 竹ノ上ケイ子教授より、母性看護・助産学の研究の現状・研究方法・エビデンスを得るための研究について解説。

#### 2) 看護における介入研究について

慶応義塾大学大学院修士課程 2 年中北充子により以

下の内容についてプレゼンテーションをおこなった。

ら体験してもらった。

### (1) 先行文献による研究方法の検討

代替・補完療法への関心が高まる中、看護研究においてもケアにそれらの技法を用いて、その効果を測定するという研究が増えてきている。

筆者が研究計画を立案するにあたりクリティークし、参考となった文献の中から、科学的測定データを用いたアロマ・マッサージ効果に関する研究を用いた。文献を整理し、研究方法や測定器具についての検討をおこなった。

### (2) 実際の研究計画の概要

研究の目的・意義、方法（デザイン・対象者・実験手順）について説明。本研究では、産婦人科病院に入院中の正常分娩後の母親を対象とし、産後の母親へのケアのひとつとして、正常経過をたどる母親への背部マッサージを行い、背部マッサージによるリラクゼーション効果を心拍計と唾液中アミラーゼの測定および主観的指標を用いて検討することを目的としている。

### (3) 測定器具について

看護研究におけるリラクゼーション技法の効果の検証について、自律神経活動を測定した研究の現状を説明。

その上で、研究で使用される心拍揺らぎリアルタイム解析システムとメモリー心拍計、唾液アミラーゼ測定器の利点・使用の意義等を説明した。



図2 唾液アミラーゼ測定器

### 3) 測定器具の使用法について

実際の測定器具を用いて、使用方法をデモンストレーションし、出席者にも体験してもらった。産婦人科施設で褥婦に対して測定器具を用いることを想定し、測定器具使用による負担感などがなく確認したが

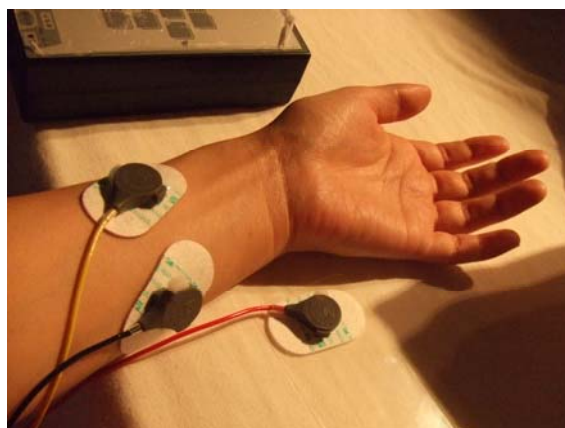


図3 モニター心拍計の装着

### 4) ディスカッション

プレゼンテーションおよび測定器具の使用体験により、研究方法や被験者となる患者への負担についての質問・アドバイス、測定器具を使用した感想、実験用具の提案を受けた。また、臨床勤務助産師より、褥婦の入院生活リズムや産婦人科病院の特徴などの情報を得、医療施設で褥婦に対して、研究を行う上での工夫について出席者とともに情報交換をおこなった。

### 4 今後の展望

本研究では、医療施設において産後の母親へ研究協力をおこなう。今回の勉強会での予備実験による検討やディスカッションにより得られたアドバイス等を参考にし、今後の研究にいかしていく。

### 謝辞

今回の勉強会を行うにあたり、ご協力いただいた講師の皆様、勉強会にご参加いただいた方々に感謝いたします。

本研究は、2008年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」支援の下に行なわれた。

### 参考文献

- 井村真澄、操華子、牛島廣治. 正常な初産後の母親に対するアロマ・マッサージ効果に関する臨床研究. *アロマセラピー学会誌*. 2005;15:17-25.
- 荒川唱子、小板橋喜久代編集. *看護にいかすリラクゼーション技法 ホリスティックアプローチ*. 東京: 医学書院; 2001.